

6 世帯属性別指数等の動き

(1) 世帯主の年齢階級別指数

世帯主の年齢階級別の総合指数について前年比をみると、「40～44歳」以下の各年齢階級では下落となり、「45～49歳」以上の各年齢階級では前年と同水準となった。下落幅が最も大きいのは「25歳未満」で0.3%の下落となった。

10大費目別にみると、保健医療は年齢階級間の差が最も大きく（「25歳未満」は1.2%の下落、「60～64歳」及び「65～69歳」は0.2%の上昇）、「35～39歳」以下の各年齢階級が下落となったのに対し、「45～49歳」以上の各年齢階級（「55～59歳」を除く。）は上昇となった。（表25）

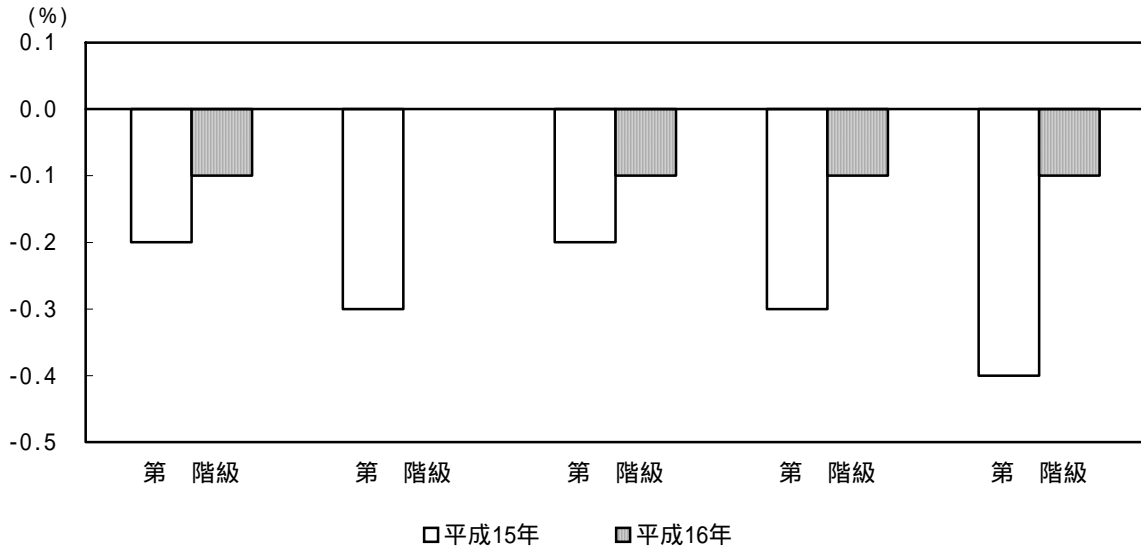
表25 世帯主の年齢階級，10大費目別の前年比

年齢階級	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平均	0.0	0.9	-0.2	0.1	-3.3	-0.2	0.0	-0.2	0.7	-1.4	0.6	0.6
25歳未満	-0.3	0.7	-0.3	0.1	-3.1	-0.3	-1.2	-0.2	0.5	-2.1	1.1	1.1
25～29歳	-0.2	0.6	-0.3	0.0	-3.2	-0.2	-0.6	-0.3	0.9	-2.3	0.8	0.8
30～34歳	-0.2	0.7	-0.3	0.0	-3.1	-0.2	-0.5	-0.1	0.8	-1.8	0.6	0.6
35～39歳	-0.1	0.8	-0.2	0.0	-3.2	-0.4	-0.2	-0.1	0.8	-1.3	0.4	0.4
40～44歳	-0.1	0.8	-0.2	0.1	-3.1	-0.3	0.0	-0.1	0.6	-1.5	0.6	0.6
45～49歳	0.0	0.8	-0.2	0.1	-3.5	-0.2	0.1	-0.2	0.6	-1.4	0.6	0.6
50～54歳	0.0	0.9	-0.3	0.1	-3.2	-0.1	0.1	-0.2	0.6	-1.4	0.7	0.7
55～59歳	0.0	1.0	-0.3	0.1	-3.1	-0.2	0.0	-0.3	0.6	-1.2	0.7	0.7
60～64歳	0.0	1.1	-0.3	0.1	-3.3	-0.2	0.2	-0.1	0.6	-1.4	0.7	0.7
65～69歳	0.0	1.1	-0.3	0.2	-3.6	-0.2	0.2	-0.2	0.6	-1.4	0.6	0.6
70歳以上	0.0	1.1	-0.3	0.1	-3.8	-0.2	0.1	-0.1	0.7	-1.0	0.5	0.5

(2) 勤労者世帯年間収入五分位階級別指数

勤労者世帯の年間収入五分位階級別の総合指数について前年比をみると、第 階級以外の階級で0.1%の下落となった。第 階級は前年と同水準となった。(図23)

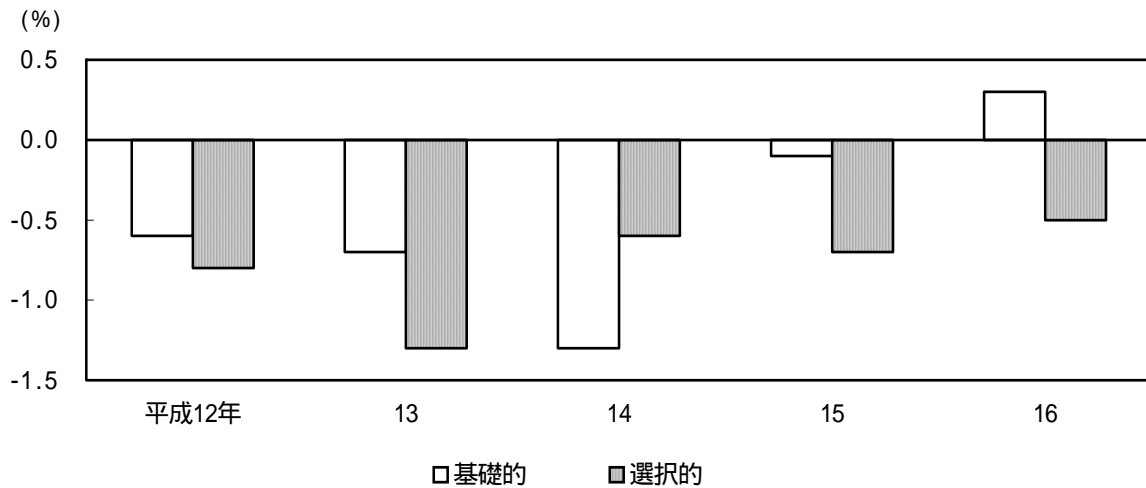
図23 勤労者世帯年間収入五分位階級別前年比



(3) 基礎的・選択的支出項目別指数

基礎的・選択的支出項目別の指数について前年比をみると、基礎的支出項目は0.3%の上昇となったのに対し、選択的支出項目は0.5%の下落となった。また、平成15年と比べると、16年は、基礎的支出項目が下落から上昇に転じ(0.4ポイント)、選択的支出項目の下落幅も縮小(0.2ポイント)した。(図24)

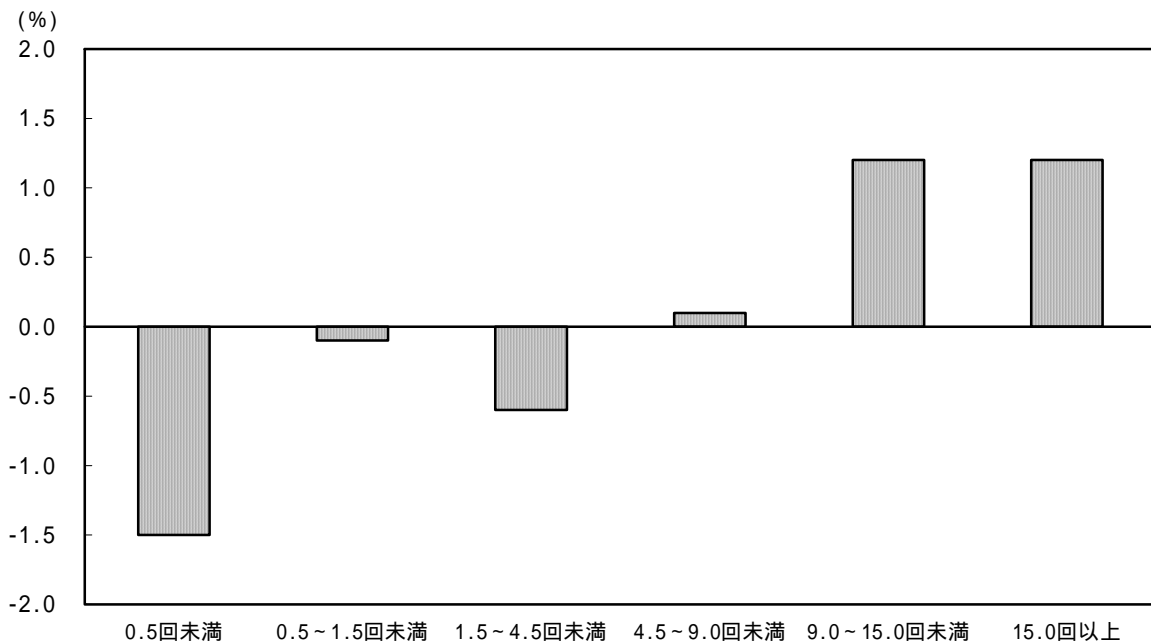
図24 基礎的・選択的支出項目別前年比



(4) 品目の年間購入頻度階級別指数

品目の年間購入頻度階級別の指数について前年比をみると、家庭用耐久財や教養娯楽用耐久財に該当する品目が含まれる「0.5回未満(まれに購入する品目)」が1.5%の下落と、最も下落幅が大きくなった。このほか、民営家賃や衣料に該当する品目の一部が含まれる「1.5~4.5回未満(年2~4回程度購入する品目)」が0.6%の下落となった。一方、電気代や固定電話通信料などが含まれる「9.0~15.0回未満(月1回程度購入する品目)」は1.2%の上昇、生鮮野菜や診療代に該当する品目の一部が含まれる「15.0回以上(頻繁に購入する品目)」は1.2%の上昇となった。(図25)

図25 品目の年間購入頻度階級別前年比



世帯属性別消費者物価指数等について

消費者物価指数は、消費者全体に及ぼす物価変動を測定しているが、子どもがいる世帯・いない世帯、持家の世帯・借家の世帯、頻繁に購入する品目・まれに購入する品目などにより、個々の世帯に及ぼす物価変動はそれぞれ異なる。そのため、基本分類指数や財・サービス分類指数のほかに、世帯属性別指数と品目特性別指数を作成し、分析に供している。

世帯の収入、住居の所有関係や世帯主の年齢などの世帯属性別の消費構造に基づいて作成している指数が世帯属性別指数である。この世帯属性別指数の算出に当たっては、価格は小売物価統計調査(当局実施)から得られる全国平均の品目別価格を共通に用い、ウエイトは家計調査(当局実施)の結果から世帯属性区分ごとに作成したものを用いているため、世帯属性別に計算された指数の差は、結果的には世帯属性別の各品目のウエイトの差、すなわち、世帯属性別の消費構造の相違に起因するものとなっている。

さらに、日常生活における購入頻度の高いもの・低いものなど支出項目間での物価変動の差をみるため、また、これらの項目別の物価変動が所得階級別にどのような影響を及ぼすかをみるため、購入頻度や各品目を支出弾力性の値の大きさ(値が1以上のものが選択的支出項目、1未満のものが基礎的支出項目)に基づいて区分し、作成している指数が品目特性別指数である。各品目についての、基礎的・選択的支出の別及び購入頻度階級については、付表1(469~491ページ)を参照されたい。なお、各世帯属性別のウエイトは、付表4(498, 499ページ)に示すとおりである。また世帯属性別及び品目特性別指数は414~436ページに掲載している。